

【大学・地域共創プラットフォーム香川】

令和4年度第1回就職・産業振興部会 議事要旨

開催日時：令和4年5月27日（金）10：30～12：00

開催方法：web 会議（Microsoft Teams）

議題事項

1. 就職・産業振興部会の進め方について（案）（議題資料1）

就職・産業振興部会の進め方について、議題資料1のとおり案が示され、審議の結果、原案どおり了承された。

2. 就職・産業振興部会における総会に向けた目標・方針について（案）（議題資料2）

就職・産業振興部会における総会に向けた目標・方針について、議題資料2のとおり案が示され、審議の結果、第2回部会において継続して審議することとした。なお、各部会委員から以下のとおり意見（※要旨のみ記載）が出され、第2回部会までに具体的な困りごとなどを根拠データとともに提出していただくこととした。

（四国学院大学）

・本学は、県内出身者が多く、県内就職率も高い。

（徳島文理大学）

・本学は、文学部、理工学部は4～5割が県内出身であり、県内出身者であれば高い割合で県内に就職する。

（高松大学・高松短期大学）

・本学の県内就職率は8割を確保できている。中小企業をよく知る取組みができないか、経済団体と連携していくことが課題であると認識している。

（香川短期大学）

・本学は、学生の9割が県内出身者で、そのうち80～85%が県内に就職する。四国の他県と比較しても、香川県の県内進学率は低く、数年に渡り、大学の魅力づくりや若者の県内定着などに取り組んできたがそれほどの効果がなかった。このような中で、大学と企業の垣根をより低くして、学生に県内企業をよく知ってもらい、魅力を感じてもらうことを、本プラットフォームが努力して行い、その道筋をつけていければよい。

（香川県商工会議所連合会（高松商工会議所））

・地元企業の人手不足に対応して、様々な事業を展開しているが、学生の目が地元企業に目が向いていないことを実感している。大学入学前や大学入学直後など、早い段階で企業を認知してもらうことが必要であり、保護者やキャリア支援の担当者が影響力を持っているので、そちらに向けた対策・情報発信も考えている。高校生に向けては、県内の高校と連携し、授業の一環で企業を知ってもらう取り組みを進められないか検討している。

（香川県中小企業団体中央会）

・学生にとっての企業の魅力とは何か、学生が魅力と思っていないことをPR

しても仕方がないので、学生が企業に求めているデータなどを学校側からご提示いただきたい。人口や大学定員が急に増えることは困難なので、香川県として地元企業に就職していただくためにどうすることがよいのか、学生・大学・行政・経済団体・高校なども巻き込んだ動きをしていくべきである。高校生の進学指導を含めて話ができれば発展的になるのではと考えている。

(香川経済同友会)

- ・会員企業様の人材難に際して、アンケートを行ったが、大学進学前の高校生の段階で、どれだけ地元の企業、課題、良さを知っているかどうかで、地元に戻って活躍する割合が違ってくることが分かってきた。昨年から高校における総合的な探求時間を利用して、会員企業様による出前授業を行っており、今年 3 月に県・高松市の教育委員会と連携協定を締結し、この活動を広く進めていきたいと考えている。学生にとっての企業の魅力とは何かを考えていくとともに、学生が自身の自己実現やキャリアプランを重視していることを感じるので、大学にも協力いただき、一緒になって取り組んでいきたい。

(香川県中小企業家同友会)

- ・会員構成は零細企業が大半を占めている。地域で若者を育て、地域に若者を残す活動を展開しており、一つの事例として、三木高校の1年生とインタビューを行っている。ここでは経営者や社員の生の声を聴くことができ、企業を知る契機にもなるが、企業側も経営理念や学生の受入れ態勢を整え、学生に良い影響を与える環境をしっかりと作っていかねばならないという課題がある。

(香川県農業協同組合中央会)

- ・学生が就職する際は、企業とマッチングしていると思うが、中身の精査をすることで、企業の魅力と合致したのか、仕方なく就職したのかなど、課題が見えてくる。中小企業の魅力を上げていかないと学生が県内に残らないし、幼少期から香川県の魅力を伝えていくことも重要である。

(香川県漁業協同組合連合会)

- ・就職サイトからの求人が主になっているので、学生が企業のことを詳しく知らないままに就職し、早期に退職する割合が高くなっている。学生にとって企業の魅力とは何かを把握していきたい。

(香川県銀行協会)

- ・銀行は採用難に直面しており、採用しても2～10年で離職する割合が高くなっている。学生の価値観をどう捉えていくか、近年は働き方の問題、やりがい重視する兆候がみられ、外国人労働者の価値観も同様の傾向がある。

(高松市)

- ・行政の役割として、インターンシップや就職説明会を充実させることが、県内就職につなげるためには重要である。インターンシップについても、デスクワークだけでなく、高松まつりの手伝いなどの現場業務を行うことで、学生にとって様々な気づきの機会になる。

- ・行政として、学生と企業をどのようにバックアップしていくか考えていきたい。

(土庄町)

- ・小豆島に高校は1つしかなく、高校卒業と同時に9割の生徒が島を離れる。行政にとって大事なことは、移住施策であって、毎年小豆島全体ではUIJターンで約400名の方に来ていただいているが、一方で500名ずつ減っている。島の産業構造は、観光、そうめん、オリーブ、醤油などで、6割が観光と製造

業に就職する。小豆島町と連携して、国の地域雇用活性化推進事業に応募を検討している。

(小豆島町)

・働く場所は大きな課題であり、一筋縄ではいかない。島への移住者は、起業される方も多く、町として起業支援を行っているが、U ターン移住者の就職が難しいといった事実がある。

(香川県)

・大学進学における県内出身者をこれ以上増やすことができるのか、また大学と企業の間にはどのような垣根があるかなど、今現在の課題や困りごと、互いのデータをしっかり出し合うことが重要である。それを基に、何がネックになっているかなどを深掘りしていきたい。学生にとって企業の魅力とは何かに係る検証データも必要であるし、高校生の企業認知に係るデータが本県にないのであればアンケートを取ってもよい。また、経済団体の会員企業様が持つデータをいただけないかと考えている。

(香川大学)

・第2回部会までの間に、議題資料2に係る意見や要望を出してもらいたい。

3. 令和4年度県内企業等への就職促進に向けた取組みについて（案）（議題資料3）

令和4年度県内企業等への就職促進に向けた取組みについて、議題資料3のとおり案が示され、審議の結果、原案どおり了承された。なお、各部会委員から出された主な意見は以下のとおり。

(香川短期大学)

・様々な取組について、共催などといった形で本プラットフォームの支援をいただきたいと考えている。私立大学は、コンソーシアム時代から大学改革総合支援事業という補助金を獲得する目的があったため、引き続き本プラットフォームが補助金獲得のためのエビデンスになって欲しいという思いがある。

(高松商工会議所)

・かがわーくフェアについては、昨年度大学コンソーシアム香川が共催となっていたので、引き続き共催としてプラットフォームとの連携を図り、就活対象学年の参加に向け周知協力をいただきたい。

(香川大学)

・議題資料2について、それぞれのお立場からご意見を頂戴したいこと、深く掘り下げた具体的なお困りごとやそれに付随するデータを添付のうえ送付していただきたい。後ほど、議事録と依頼文書を出させていただくので、ご提出いただきたい。

その他事項

1. その他

高松商工会議所から、令和4年度新規事業県内教育機関と連携した地元企業紹介等について、その他資料1に基づき説明があった。